

2023_1206「長野原町応桑から見た山嶺（動画）」日々の理科 3408号
お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

応桑（おうくわ）というのは、北軽井沢よりも少し北側に位置する、長野原町の大字名の一つです。このあたりも夏はキャベツの栽培が盛んで、浅間の裾野に開けた土地は遮るものがほとんどなく、遠くの山も良く見えます。

動画では、最初に「浅間山」その後右に視線を移動して、浅間山外輪山の一つ「蛇骨岳（じゃこつだけ）」、溶岩円頂丘の「籠ノ登山（かごのとやま）」、浅間・烏帽子火山群の溶岩ドーム群「栈敷山（さじきやま）」や「村上山」、一番低いところが「鳥居峠（とりいとうげ）」です。鳥居峠には国道が通っていて、真田・上田方面へ抜けられます。更に右には日本百名山の一つ「四阿山（あずまやさん）」、山脈の上に月が見えて、一番右には特異な形状の「毛無峠（けなしとうげ）」とその左の「破風岳（はふだけ）」があります。

ほとんどの山は群馬県と長野県の境目にある、いわゆる「上信国境」の山嶺です。ここから眺めると、まだ登頂していない山もあるので、いつかは登ってみたいと、いつも思います。

(2023年12月上旬／群馬県長野原町応桑)

